

議事要旨(5) 金融商品専門委員会の検討状況

(分類及び測定)

冒頭、加藤副委員長（専門委員長）より、金融商品専門委員会の検討状況として、2012年11月にIASBから公開草案「分類及び測定：IFRS第9号の限定的修正（IFRS第9号（2010年）の修正案）」（コメント期限：2013年3月28日）が公表され、金融商品専門委員会として当該公開草案に対するコメント案の検討を行っている旨の説明がなされた。これに続き、沖本研究員より、金融商品専門委員会における議論を踏まえて修正されたコメント案について、概要の説明がなされた。

説明の後、委員等から、以下のような発言がなされた。

- ある委員から、契約上のキャッシュ・フロー特性の評価のプロセスの統合について、事務局提案のとおり「ただし、元本と貨幣の時間価値及び信用リスクと関連のない支払を含まないことが明らかである場合には、ベンチマーク・キャッシュ・フローとの比較を行う必要はない」との文言を入れると、「3要素と関連のない支払が含まれていない場合、それらの経済的関係が改変されていないかどうかを評価する」とのプロセスが空洞化するのではないかと質問があった。これに対し事務局からは、「3要素と関連のない支払が含まれるかどうか」という目線に一本化することを想定している、との回答があった。
- ある委員から、ベンチマーク・キャッシュ・フローとの比較に一本化され、かつ3要素以外の支払を含んでいないことが明らかな場合には当該比較も不要となれば、実務上の観点からは非常に有難いことであり、事務局提案を支持するとの意見が述べられた。同委員は、評価の具体的方法としては、金融資産の契約期間通算でベンチマーク・キャッシュ・フローとの相違を比較して評価する方法が実務に馴染むと付言した。
- 鶯地 IASB 理事より、「改変された経済的関係の評価に関する IASB の目線は、当該関係が変わり得るかどうかにある。この意味では、IASB の意図は定性的な評価を重視している面がある。」とのコメントがあった。これに対し事務局からは、今般の主張は、定量的な評価を重視することにより、プロセスの簡素化を目指したものである、との回答があった。
- ある委員から、FVOCI 区分の導入を必ずしも支持しない意見があることに関連して、基準の複雑性は測定区分数にのみ依拠するわけではないとの事務局案については、測定区分数が増加することは複雑性に関係するのも事実なので、財務報告の有用性との関係で少し記述を工夫した方がよいこと、及び、事業モデルの変更のタイミングに関する記述について、変更のタイミングは事実認定に関わるものでもあり、会計方針等はそぐわないのではないかと意見があった。

最後に、加藤副委員長より、事務局において、頂いたご意見を踏まえてコメント案を修正した上で、次回開催の企業会計基準委員会においてコメントレターの承認をいただくことを予定しているとの説明がなされた。

(減損)

冒頭、加藤副委員長（専門委員長）より、金融商品専門委員会の検討状況として、2012年12月にFASBから公開草案「金融商品：信用損失（Subtopic825-15）」（コメント期限：2013年4月30日）が公表され、金融商品専門委員会として当該公開草案に対するコメント案の検討を行っている旨の説明がなされた。これに続き、神谷専門研究員より、公開草案の概要及び金融商品専門委員会における検討状況について、概要の説明がなされた。

説明の後、委員等から、次のような発言がなされた。

- あるオブザーバーより、購入した信用減損金融資産に関して提案されている方法を前提とすれば、信用減損損失の認識について初日の損失が認識されることはないのではないかと質問がなされた。これに対して、事務局からは、FASBより提案されている減損モデルでは、購入した信用減損金融資産とそれ以外の金融資産とで異なる取扱いが提案されており、それ以外の金融資産については初日の損失が認識されることになるとの説明がなされた。
- ある委員より、IASBとFASBとで、収斂した減損モデルを開発することが望まれるとの発言がなされた。同委員からは、さらに、今後詳細な検討が必要ではあるが、FASBより提案されている減損モデルによると、引当金が過大に認識されることが懸念されるとの発言がなされた。

以 上